

書店と図書館がつなぐ未来の読者 in 田原市

先行連携地域の実践事例

瀬戸市の取り組みについて

瀬戸市立図書館・館長 吉村きみ
瀬戸市立図書館用図書納入組合 組合長
(春広堂書店 代表取締役) 大橋徹太郎

コーディネーター

図書館と地域をむすぶ協議会 太田剛

図書館で地域が変わる！

主客の転倒

主語から述語へ

瀬戸市立図書館の利活用計画(5ヶ年計画)の3つの柱

瀬戸市立図書館が目指す3つの未来像

生きがい

図書館に触れ、関わることで、市民が多様な「生きがい」を感じる図書館に。

つながり

本(知)や資料を介して、人・物・事が交流し、つながりを創出する図書館に。

課題解決

地域社会や市民が抱える多様な課題解決に、積極的に取り組む図書館に。

未来像に基づく図書館改革の3つの方向性

リベラルアーツ

市民の教養を担保し、未来を担う人材を育てるための本や資料の充実。

シビックプライド

瀬戸市の歴史・文化・自然に誇りをもち、未来とともに共有する図書館へ。

ソーシャルインベーション

市民が自立し、共に助け合う持続可能な社会づくりの核となる書館へ。

具体的なアクションの3つのポイント

空間づくり

市民が交流し、サードプレイスとして魅力を感じる知的空間としての改修。

選書と配架

魅力を失った蔵書の配架の見直しと、中長期的な選書計画による刷新。

人材育成

図書館の未来像を共有し、運営や情報編集等をサポートする人材の育成。

【ソーシャルイノベーション】

よりよい社会のために、新しい仕組みを生み出し、変化を引き起こす、そのアイデアと実践

〈ソーシャルイノベーション〉が多く実践されることによって、本当の意味での持続可能な“みんながみんなを支える社会”が実現する

日本財団「ソーシャルイノベーションフォーラム」

とんち協が想定する第5世代の図書館とは

第1世代	GHQの指導により、CIE(民間情報教育局)がアメリカ式の図書館を各地につくり、図書館法を成立させたが実態はともなわず、ほとんど機能しなかった。
第2世代	日本図書館協会の「中小リポート」(1963年)「市民の図書館」(1970年)の普及で一般化した図書館のモデル。90年代に入り「無料貸本屋」論争を巻き起こすなど時代の変化の中で役割を終えつつあるともいわれる。
第3世代	資料の貸出数よりも、空間のつくりを重視する滞在型の図書館。後に図書館を集客装置とみなす、俗に「ツタヤ図書館」と呼ばれる事例が登場し、賛否両論を引き起こした。
第4世代	第2世代および第3世代への移行の反省から、図書館そのものの機能を活かし、まちづくりの核施設として位置づける図書館。課題解決型図書館ともいわれる。
第5世代	図書館の運営そのものが、ヒト・モノ・コトの交流と人材育成、雇用創出をもたらし、地域経済を循環させるソーシャルイノベーションを起こす図書館。

瀬戸市立図書館の利活用計画実現のための整備計画

ツール

- ・蔵書管理システムを見直し、自由な本棚編集を実現
- ・調度・内装・照明の刷新で魅力ある空間づくり
- ・Webおよび紙メディアの充実による情報力強化
- ・電子書籍の効果的な導入と利用促進計画
- ・人・事・物の交流を促すツールの工夫

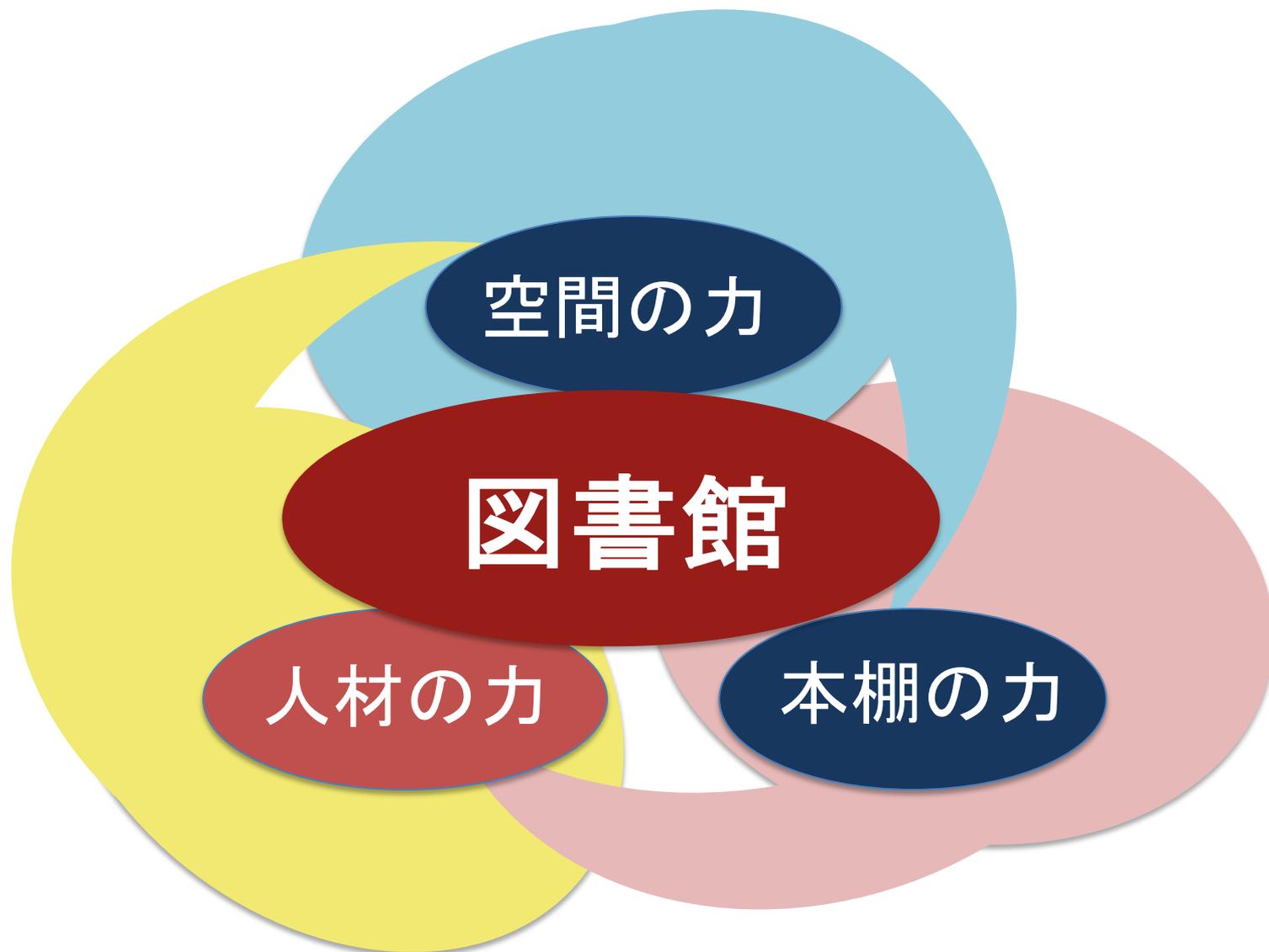
ルール

- ・選書ルールと調達プロセスの見直し
- ・リクエスト対応等の選書ルールの見直し
- ・館内ルールから図書館条例まで見直し
→瀬戸市の未来を拓く図書館への改革のため
全てのルールを見直して明示化する

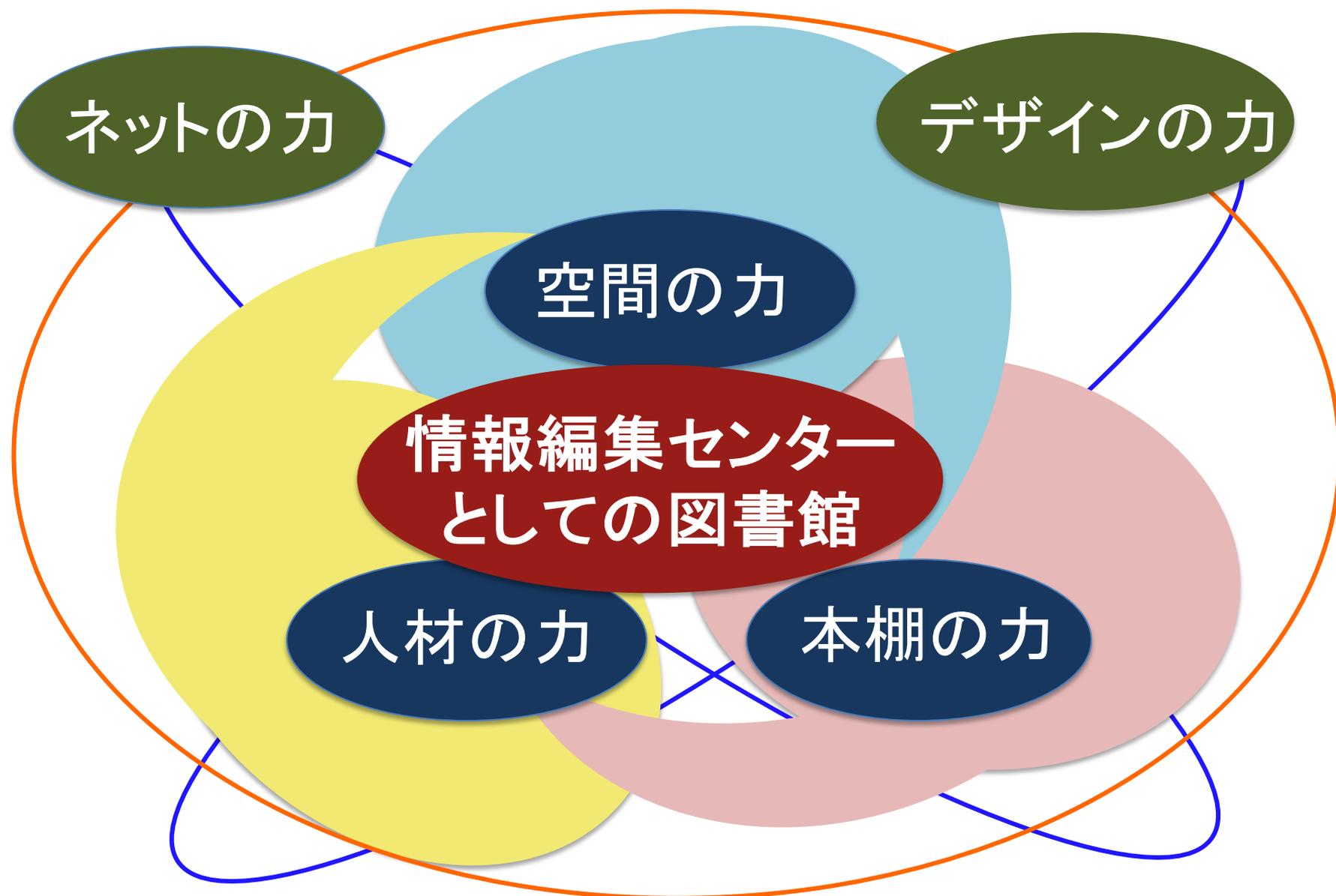
ロール

- ・図書館・書店・その他民間活力の関係再編集
- ・カウンター業務の見直しと再設定
- ・**市民サポーター組織の見直しと再構築**
- ・5ヶ年計画の実現に向けた外部アドバイザー兼ディレクター制を導入

図書館が本来持っている3つの潜在力



図書館が持っている潜在力を活かす



地域コンテンツの収集・蓄積・発信・交流を担う

図書館エディター養成講座

出前講座受付中

基礎編集術

選書術

本棚編集術

インタビュー術

レファレンス
コミュニケーション術

企画力

ブログ術

カメラ術

SNS心得

瀬戸市立図書館

図書館エディター愛称

STEP

せと 図書館 エディター Partner

総務省 地域力創造アドバイザー

図書館を拠点とした地域づくりプロジェクトで、年間最大560万円×3年間、特別交付金として助成されます。

太田 剛 図書館と地域をむすぶ協議会 代表
慶應義塾大学(SFC)講師／編集工学機動隊GEAR 代表



【図書館で地域力を創造する事業の一例】

- ・図書館を核にしたソーシャルイノベーション
- ・空き店舗のミニ図書館化で商店街活性化
- ・図書館と「道の駅」のコラボレーションモデル
- ・本の宅配と独居老人見守りサービス提供
- ・外国人居住者向け多文化・多言語交流拠点
- ・ストレス測定＋落語会で未病化による活性化
- ・図書館エディターによる地域の魅力発掘
- ・街の語り部インタビューで世代間交流事業

雑誌『みんなの図書館』 2025年1月号

【特集】

蔵書づくりを考える ～出版・流通・書店との関 係を背景としながら

〈「蔵書をつくる～出版、流通、書店、図書館」のようなイメージの特集を組みたい〉

〈特に立法府、省庁、出版界の動き、世界の動向などを俯瞰しながらの今後の見通しや、図書館員の視野が広げられるようなメッセージを〉

「本屋の未来」、言い換えれば「図書館と書店の関係の再編集」に関して、重要なキーワードが5つが浮かび上がってきた。それは

【アフォーダンス】

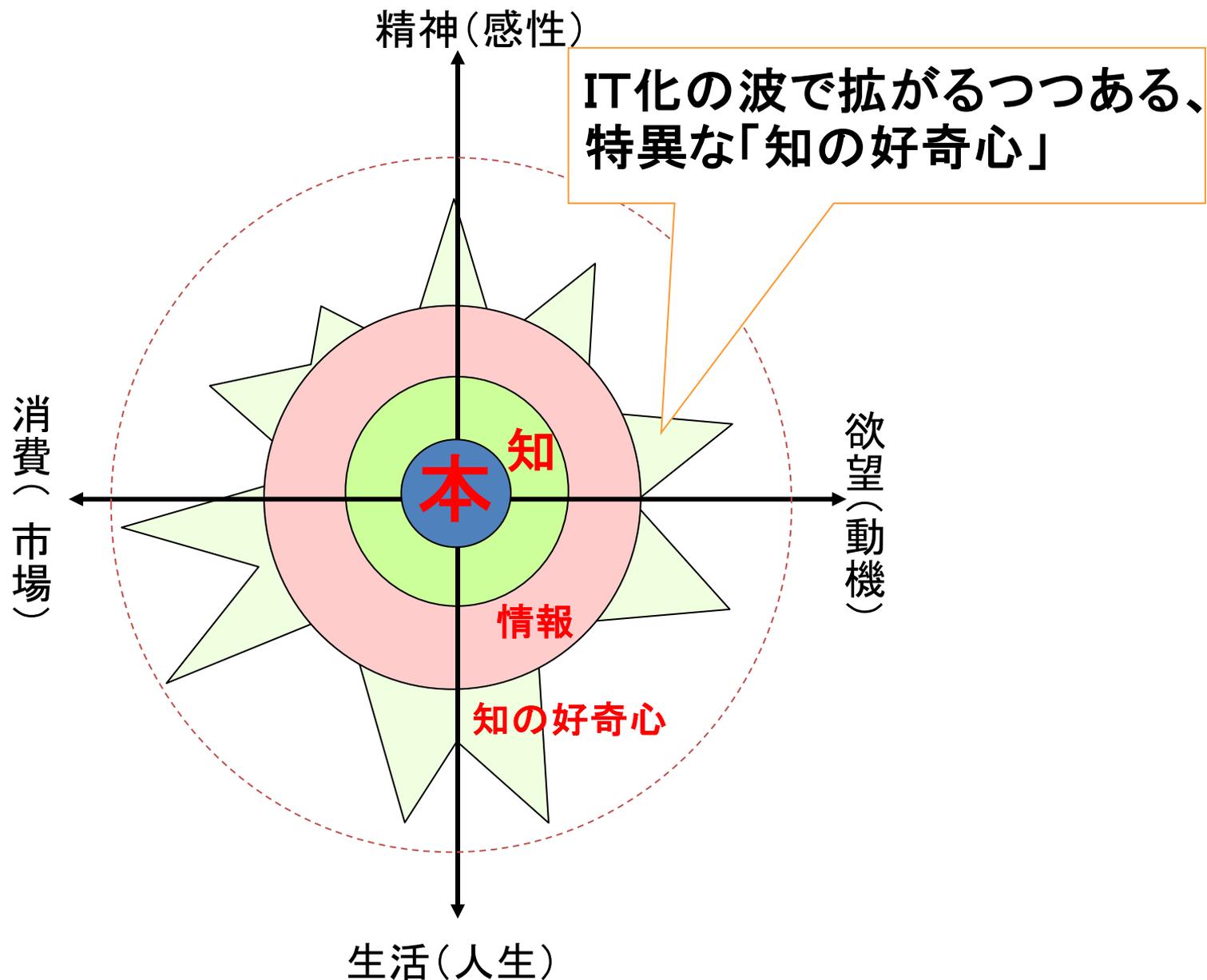
【サードプレイス】

【セレンディピティ】

【エディターシップ】

の5つである。それぞれの言葉の意味は、説明し始めるととても紙幅が足りないので、司書の皆さんは自身にレファレンスするつもりで調べて身につけていただきたい。その5つのキーワードを駆使しながら目指す、図書館を核にした地域づくりのキーワードが【レジリエンス】である。

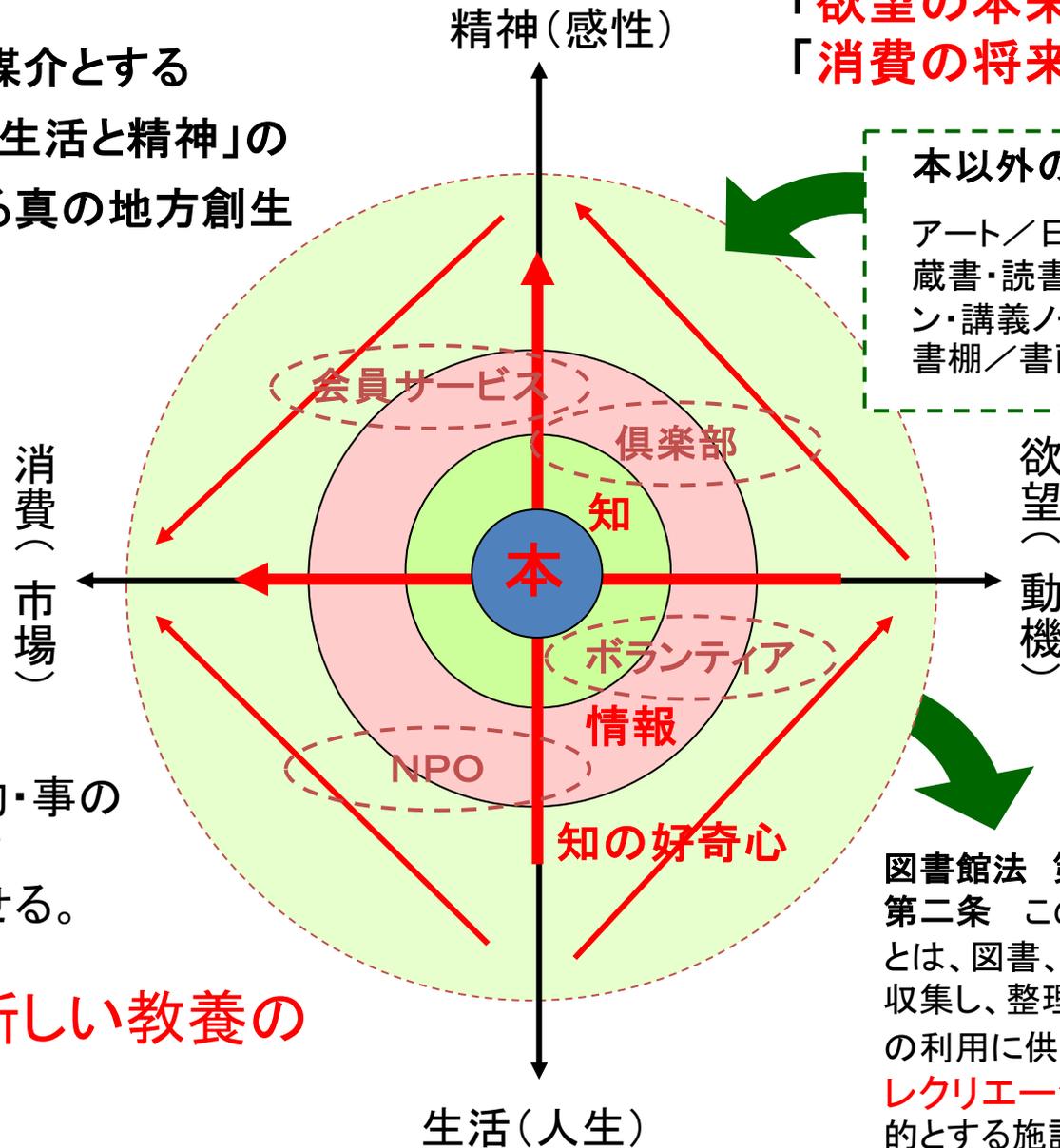
本をめぐる読者のパーソナル基本マトリクス



編集工学が想定する編集型循環経済マップ

知の好奇心を媒介とする
「欲望と消費」「生活と精神」の
触発連鎖による真の地方創生

「欲望の本来」と
「消費の将来」の間を喚起



本以外の実物の交流

アート／日用品／古本／著名人の蔵書・読書ノート・眼鏡・椅子・カバン・講義ノート／デザイナーによる書棚／書画骨董／和菓子…etc

本(知)が人・物・事の
接着剤となって
経済を循環させる。

図書館は新しい教養の
起爆剤に！

図書館法 第一章 総則

第二条 この法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設…